

令和2年度 事業計画

公益財団法人 日本博物館協会

1. 博物館の普及啓発に関する事業

1) 月刊誌「博物館研究」の刊行

博物館の総合研究情報誌として、内外の動向を反映しつつ博物館の取り組むべき課題について、毎号特集テーマを設定して内容の充実を図るとともに、博物館関連の最新情報、地方の動向とともに、ICOM（国際博物館会議）京都大会終了後の ICOM を中心とする博物館の国際動向や海外ニュース等各種情報の提供に努める。また、発行部数の拡大に努め、今後の編集方針等についての検討を継続する。

2) 全国博物館大会の開催

第 68 回全国博物館大会を、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会の協力のもとに、文化庁の後援を得て、11 月 25 日（水）～27 日（金）の 3 日間、横浜市開港記念会館において開催する。本大会では、3 日間にわたり博物館に関する諸問題について研究協議を行い、「変化の中の博物館」（仮テーマ）をメインテーマに、基調講演、全国博物館フォーラム、シンポジウム、分科会、施設見学等を行う。

3) 全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、全国博物館長会議を、文化庁との共催のもとに、6 月 17 日（水）に江戸東京博物館で開催する。文化庁の博物館担当官等による令和 2 年度事業の行政説明及び当協会の令和 2 年度事業計画等の説明を行うとともに、博物館運営及び館長のリーダーシップなどについてシンポジウム等を行う。また、新たに設けた日本博物館協会賞受賞館のプレゼンテーションも行う。

2. 博物館に対する支援に関する事業

1) 博物館利用支援機器の支給

子育て世代、高齢者、障がい者等の博物館の利用の促進を図り、これらの人々の文化的、知的要求に応えるとともに、生き甲斐と豊かな生活を支援するため、一般財団法人日本宝くじ協会の助成を得て、今年度は車いす、ベビーカー、それらに加えて歩行ポジションと着座ポジションに変換が可能な新機器「歩行車」の支給を行う。

支給予定台数	車いす	100 台
	ベビーカー 帆なし	100 台

2) 博物館絆プロジェクトの実施

発災から9年が経過したが、未だ復興の途上にある東日本大震災のみならず、地震や豪雨災害等による博物館や文化財に対する被害が続いている状況に鑑み、大規模災害時の博物館・文化財被害への継続的対応のため平成24年度に立ち上げた「博物館絆プロジェクト」を今年度も継続する。

今年度は、引き続き、国立文化財機構を中心とする「文化財防災ネットワーク」の構成団体として、博物館の防災体制の整備を進めるとともに、平成26年度から文化庁の補助事業として実施している「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」を継続する（文化庁の令和2年度文化芸術振興費補助金を申請中）。

なお、昨年10月に襲来した台風19号により被災した文化財（川崎市市民ミュージアムの水没した収蔵庫内の文化財、及び千曲川の氾濫により発生した水害のために長野市立博物館周辺の神社・仏閣及び古民家等から同博物館に運びこまれた文化財）のレスキュー活動を継続する。また、今後発生が危惧される大規模災害への対応を含め、引き続き募金・寄付の募集、救援事業への参加者募集を継続する。

3. 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

1) 今後の博物館制度の在り方に関する調査研究

昨年度実施した博物館総合調査について、同調査実施のために組織した委員会の活動を引き継ぎ、調査結果の分析を進め、早期に実施結果の報告書を刊行する。また、総合調査で得られた全国の博物館の運営実態を、昨年末に発足した文化審議会博物館部会での議論にも反映させ、博物館法改正も含む今後の博物館制度の在り方についての議論の進展に取り組む。合わせて、今後の博物館制度の在り方については、文化庁等国の機関をはじめ、日本学術会議や関連学会との連携の下に、全国の博物館関係者の意見を集約するために、シンポジウム等を開催し、議論を深めるとともに日博協としての方向性を示す。

合わせて、令和10年（2028年）に日博協が創設100周年を迎えるに際し、今後の日本の博物館振興に向けて果たすべき日博協の役割・機能についての検討を行いつつ、日博協の中長期計画を策定する。

2) 博物館に関する情報の提供

- ① 全国博物館園職員録等を刊行し、博物館活動に必要な情報を提供する。
- ② 全国の博物館の所在地、交通案内、収蔵品、常設展示等について記載した全国博物館総覧の編集を行い、博物館活動の連携を推進するための情報を提供する。

4. 博物館関係者の資質の向上に関する事業

1) 研究協議会の開催

博物館の学芸員をはじめ職員の資質の向上を図るため、当面する諸課題を含め博物館運営に関する理論と実際について 2~3 テーマを設定し、2 日間のプログラムとして全国から会場を選定し開催する。

なお、前年度に新型コロナウイルス感染予防対策のために中止となった“防災の備え”については、再度開催実施の方向で準備する。

2) 顕彰の実施

博物館に永年勤続し功労のあった博物館職員等に博物館功労賞を授与するとともに、前年度「博物館研究」に掲載された優れた論文について棚橋賞を、また、優れた実践報告等に対する博物館活動奨励賞を授与し、その功績を顕彰する。

また、平成 30 年度に日本博物館協会創設 90 周年を記念して実施した特別表彰を発展的に継続させるために、令和元年度に創設した「日本博物館協会賞」の周知につとめ、受賞館のうちの 1 館を毎年秋にドブロクニク（クロアチア）で開催される the Best in Heritage に日本の代表館として送り出す。

3) 美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業の実施

平成 24 年度から試行実施した美術品梱包輸送技能士資格認定事業（平成 25 年度から美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業と改称）については、平成 25 年度に 1 級（上級）資格の試行試験を終了したことに伴い、平成 26 年度から、3 級（初級）、2 級（中級）、1 級（上級）について、本格実施している。

受験希望者の多い 2 級および 3 級は今年度も 2 月に土・日の 2 日間連続で開催する。2 級の面接免除者、3 級の筆記免除者の制度は継続する。1 級については本年度も 8 月に定員 10 名で実施する。

大手業者と中小業者で合格率、合格者数の格差が生じているため、中小業者の梱包技術向上を目的として、実技ビデオのホームページ上での

公開を継続する。

また、資格認定制度の普及を図るため、各博物館及び関係機関に、美術品の梱包輸送に当たっては、本認定資格者を有する美術品取扱い業者を優先して採用するよう引き続き働きかけていく。

5. 博物館の国際交流に関する事業

1) ICOM 京都大会終了後の国際発信・国際交流体制の強化

成功裏に終了した ICOM（国際博物館会議）京都大会 2019 の成果を一過性のものとすることなく、その成果を今後の日本の博物館振興につなげるべく取組を強化する。

- ・増加した国内会員の会員数維持とさらなる拡大に向けた情報提供、ICOM 日本委員会のホームページ機能の強化、ICOM 京都大会 2019 ホームページの ICOM 日本委員会のホームページ上でのアーカイブ化
- ・新たに新設された博物館災害対策国際委員会 (DRMC) やアジア美術等、京都大会のレガシーとして期待される事業への積極的な取組。
- ・ICOM 京都大会で採択延期となった博物館定義をはじめとする重要テーマに関する国内での議論を深めるためのシンポジウム等の開催。
- ・文化庁補助金等の活用による ICOM 国際委員会ボードメンバー等関係者の国際会議等への出席・発表等を支援し、日本の博物館の国際発信とともに、国際組織で活躍できる人材の育成を促進する。（文化庁令和 2 年度文化芸術振興費補助金（地域と共働した博物館創造活動支援事業）の申請中）
- ・ICOM 日本委員会の組織基盤強化に向けた事務局体制の見直し。

2) 「国際博物館の日」事業の実施

ICOM が世界規模で行う「国際博物館の日」事業として、昨年の ICOM 京都大会博物館の成果を確認するとともに、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールすることを目的として、令和 2 年（2020 年）の国際博物館の日のテーマ“Museums for Equality: Diversity and Inclusion 2020”（平等を実現する場としての博物館：多様性と包括性 2020（仮訳））に沿って、5 月 18 日の「国際博物館の日」を中心に、全国の各博物館において、入館料の減免、記念品の作成・配付、特別展や講演会の開催等の記念行事を展開する。本事業の広報のために PR 用ポスターを作成し、国内の各博物館及び関係機関に広く配布し、博物館の存在と活動の広がりをアピールする。

また、ICOM 日本委員会等との共催で、記念シンポジウムを東京国立博物館を会場に5月16日（土）に開催する。

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業
 - 1) 各地区単位の博物館の会議に共催者として職員の派遣及び情報提供等の支援を行う。
 - 2) 当協会のホームページを刷新し、会員各館園を有機的に結び付けかつ機能的で使いやすいものとする。
 - 3) 希望会員館園を構成員として、施設賠償責任保険（賠償責任保険制度）及びレジャー・サービス施設費用保険（見舞金制度）の団体加入の周知と加入促進に努め、入館者に対する安心・安全の確保を図る。